

8. 単元名「あきと ともだち」(全23時間) 1次案 1年 ※クラスによって、内容や児童の意見が多少異なる。

	子どもの声・姿・意識	活動の展開	教師の関わり(手立て)	単元の評価規準 ○知識・技能 ◎思考・判断・表現 ●主体的に学習に取り組む態度 <キャリア・未来デザイン教育の視点> [探究的な学びの視点]
第一次	「秋みつけ」(6)			
	<ul style="list-style-type: none"> ・秋や秋の遊びについて、友達と話したい! ・秋らしいものを探しに出掛けたいなあ。 ・秋の葉っぱや、まつぼっくりを拾いたい。 ・夏の様子と、どこが違うか比べたいなあ。 ・葉っぱがとってもいい色になっていて嬉しい。 ・枯れ葉のベッドで寝ころんじゃおうっと。 ・せっかくの秋のもので、何かやりたいなあ。 ・秋の自然物を触る・並べる・嗅ぐ・転がす等。 	<ul style="list-style-type: none"> ○保育園や幼稚園での活動の振り返りをする。 ○秋について知っていることを教え合う。 ○「秋みつけ」に出かける。(都立園芸高校敷地内) ○秋の植物の様子を観察したり、秋を感じるものを探したりする。 ○落ち葉や木の実などの自然物をよく見たり、触ったり、遊んだりする。 ○見付けたことや気付いたことを伝え合う。 ○図画工作「つくってへんしん」にて、秋を装う活動を行い、楽しむ。 例:紅葉の腕時計・冠・帽子・服・お面・首飾り等 	<ul style="list-style-type: none"> ・秋らしいもの(給食の旬の食材や、植物の変化など)について。興味関心が高まるようにする。 ・夏の様子を想起して、「何の様子がどうなってきたら秋なのか」と問いかけ、季節の移り変わりへ関心をもてるようにする。 ・落ち葉や木の実などを使って遊びたいという児童の願いをひろい、秋の工作活動につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> [1:課題を見出し、把握している]<③課題対応能力> ○植物や生き物、気温、風などの秋らしい自然の様子や遊びの面白さ、自然の不思議さに気付いている。 [2:課題解決の方法を考えている] [3:協働して学んでいる] ◎秋の自然の様子や遊びについて、五感を通して感じたり、夏の様子と比較したりしながら、伝えたり遊んだりしている。 ●秋の自然と関わる活動を通して、身近な自然を取り入れて自分の生活を楽しくしたり、みんなと楽しみながら遊びを作り出したりしようとしている。<②自己理解・自己管理能力>
第二次	「秋の工作で遊ぼう」			
	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と見せ合いながら、会話をする。 こんなのがあったの、見てみて。→それいいなあ。 ・拾ったどんぐりを使って、遊びたい。 ・どんぐりごまを作って、競わせたい。 ・幼稚園では、やじろべえがうまく作れなかったから、今度は上手に作りたい。 ・どんぐりには、どんな種類があるのかな。 ・どんぐりマラカスを作りたい! ・どんぐりのアクセサリーを、黙々と作っている。 ・友達はどうなものを作っているのかな。 ・友達と一緒に遊びたいなあ。 ・○○さんと同じように、自分もやってみたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○材について、工夫の可能性を探る。 どんぐり 枝 まつぼっくり 色付いた葉 ○転がしてみる。 ○どんぐりの種類について調べる。 ○自分の作りたいものを作る。 例:どんぐりごま・やじろべえ・人形・まつぼっくりけん玉・アクセサリー・ でんでん太鼓・マラカス・めいろ等 ○友達に遊んでもらい、アドバイスをもらう。 ○工夫して作り直す。(頑丈にする、おしゃれにする、おもしろくする、など) 	<ul style="list-style-type: none"> ・秋のおもちゃや作品を提示することで、児童が作りたいものをイメージしやすい環境を作る。 ・どんぐり以外の自然物も種類ごとに分類して並べて置くようにする。ひと目で見渡せることで関心が高まり、色や形に注目して比べやすくなる。 ・いつでも手に取りやすいようにコーナーを常設することで、休み時間などにも遊びを考えたり工夫したりするようになる。 ・教師も遊びの仲間に入ったり、感じたことを伝えたりする。 ・教師は子どもの様子を見取り、課題の整理をすることで、思いや願いをより強くもったり、自覚できるようにしたりする役割をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○楽しくおもちゃ作りをするためには、道具や用具を適切に使うことや、次に使う人のために活動後に整理整頓・掃除をすることが大切であると気付いている。 [1:課題を見出し、把握している]<③課題対応能力> ●前時からの思いや願いを受け、秋の自然物の特徴を生かして、どんな遊びをしたいか話し合いながら意思決定することができる。また、活動を振り返り次の活動へ発展するような振り返りや話し合いをしている。 [2:課題解決の方法を考えている] [3:協働して学んでいる] <①人間関係形成・社会形成能力> <④キャリアプランニング能力> ◎秋の自然物を他の物に見立てたり、その特徴を生かしたりして、よりよくするにはどうすればよいかを考えている。 <③課題対応能力> ●自己の取り組みを振り返り、より楽しいおもちゃを作ろうと、探究活動に粘り強く取り組もうとしている。
第三次	「秋色染め」(第2次と同時進行で進め、合わせて17時間扱い。)			
	<ul style="list-style-type: none"> ・どんぐりが少なくて、まだ秋遊びに満足できないよ。 ・秋の色で楽しみ尽くすなんて、おもしろそう。 ・黄色い桜の葉で布が染まるなんてすごい。わくわくするなあ。 ・染まった布の柄を、みんなに見せたい。 ・染まった布を、だれかにプレゼントしたいなあ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○桜色を出すために、桜の葉っぱを拾い集める。 ○色が付いた「秋色液」に、布を入れてみる。 ○模様を付けるにはどうしたらいいか調べ、知り、選ぶ。 ○輪ゴムで結んだり、割りばしではさんだりして、模様を付けてみる。 ○鍋から取り出し、広げて色付きや柄・模様を楽しみ、洗い、干す。 ○乾いた布を見せ合い、色・柄・模様の作り方を聞くなどして、交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あさがおのたたき染めを想起して、秋の自然物でも色が作れないか考えられるようにする。 ・染める枚数や、柄・模様などは、子どもが選べるようにする。 ・模様を付けるにはどんな方法があるか、資料や動画を用意して、具体的に考えたり、友達と見せ合ったりできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○みんなが楽しく活動するために、制作のルールを守っている。 <①人間関係形成・社会形成能力> ◎友達の作ったものと比べたり、作り方を見直したりして、考えている。[3:協働して学んでいる] ●秋らしい自然の様子や秋ならではの遊びの楽しさを実感することで、これからも積極的に自然に触れあって遊んだり、身近な自然を取り入れ、自分の生活を楽しくしたりしようとしている。 <②自己理解・自己管理能力>

材(秋の自然物)のもつ価値

- ・秋の自然と関わることで、遊びや遊びに使うものを工夫して作ったり、自然の特徴を見付けたりすることができる。
- ・四季の中で、秋は植物の変化や様子の違いに気付きやすく、自然の不思議さを感じ取ることができる。
- ・自分たちが拾ってきた葉や木の実などを使うことで、自分の生活を楽しくしたり、友達と楽しみながら、遊びや制作で表現したりするなど様々な活動への広がり期待できる。

材(秋)のもつ価値に寄せる子どもたちの思いや願い

- ☆秋の自然物を探しに行きたいと思っている。
- ☆みんなと秋の自然物で楽しく遊びたいと願っている。
- ★秋の自然物を使って、染める、作る、遊ぶなどしたいと願っている。

★…子どもたちの深層にある求め(子どもたちが一番やりたいこと・願い)